

ぜん 全

しん 進

全員で 進もう!

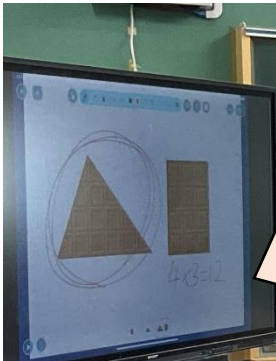


確かな学び通信

2026.7.13

算数小研 5-1「面積の求め方を考えよう」

先週は算数の小研がありました。三角形の面積を求める公式を、既習の図形の面積の求め方を使って導き出すという授業でした。単に公式を覚え、面積を求めることができるようになるのではなく、そこにいたる過程や既習内容とのつながりを意識した授業でした。授業での子どもたちの姿を中心に、小研での学びをみなさんと共有したいと思います。

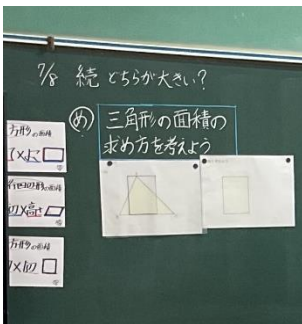


☆みんなが学びに向かう導入

授業は、これまでに学習した図形の面積の公式を確認するところから始まりました。その後、長方形と三角形のチョコレートを提示し、「どちらが大きいだろう」と問いかけます。さらに、同じ大きさの長方形と三角形を実際に用意し、改めて大きさについて考える時間を設定しました。最後には、長方形と同じ面積の枠が描かれた透明シートを三角形に重ね、「本当に同じくらいなのだろうか」と予想させることで、子どもたちの興味を一層高めました。

一つひとつの活動は短時間でしたが、「知っていることを思い出す」「比べる」「予想する」といった思考をテンポよく積み重ねることで、子どもたちは自然と学習課題へ引き込まれていきました。導入の段階で「考えてみたい」「早く確かめたい」という思いが生まれていたからこそ、その後の主体的な学びにつながっていたように感じます。

授業の導入は、単に課題を提示する時間ではなく、子どもたちの知的好奇心を高め、学びに向かう気持ちをつくる大切な時間だと思います。「どのような活動を、どのような順番でつなぐと子どもが考えたいのか」という視点で導入を構想することの重要性を改めて学ぶことができました。

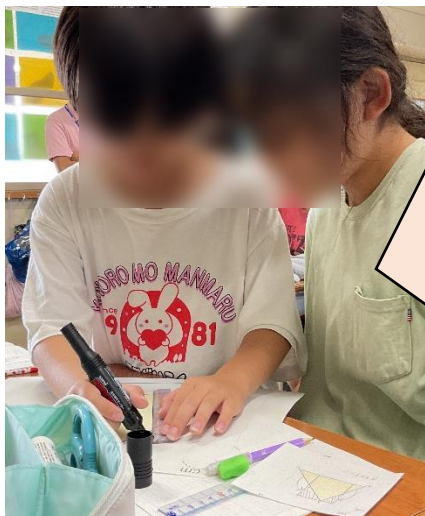


☆没頭できる環境

導入で学習への意欲が高まった子どもたちは、自力解決で三角形の面積の求め方を考えました。その際、考えを書く用紙を一人1枚ではなく複数枚用意し、「思いついた分だけ考えを書いてよい」という環境が整えられていました。また、あらかじめ三角形に切り取った紙を準備しておくことで、「切る」という作業に時間を使うことなく、「どうすれば面積を求められるのか」という思考に集中することができていました。

子どもたちが黙々と図形を動かし、試行錯誤を繰り返す姿からは、課題に没頭している様子が伝わってきました。授業づくりでは、「何を考えさせるか」だけでなく、「子どもが考えることに集中できる環境をどう整えるか」という視点も欠かせません。教材や教具、準備物を少し工夫することで、子どもたちがより考えることに没頭できることを改めて学ぶことができました。





☆考えたことをアウトプットする

一人ひとりが自力解決でじっくり考えた後は、2～3人のグループで考えを共有しました。それぞれが考えた求め方の共通点や違いを話し合いながら、グループとして一つの考えにまとめ、大きなシートに表現していました。自分の考えを説明したり、友達のを聞いたりする中で、「なぜそう考えたのか」を言葉にしながら思考を整理していく姿が見られました。

自分の考えは、頭の中にあるだけでは曖昧なままですが、言葉や図で表現し、友達と比べ合うことで、考えの根拠や違いが明確になっていきます。また、同じ考え方でも、伝え方や表現の仕方によって相手への伝わり方が変わることも気付くことができます。少人数で安心して対話できる場があることで、一人ひとりの思考が整理され、より深い学びへとつながっていました。

授業づくりでは、「考えさせること」だけでなく、「いつ」「誰と」「どのような形で」アウトプットする場を設定するかが重要です。個人で考える時間と対話する時間を意図的に組み合わせることが、子どもたちの学びを深める大切な視点であることを改めて感じました。

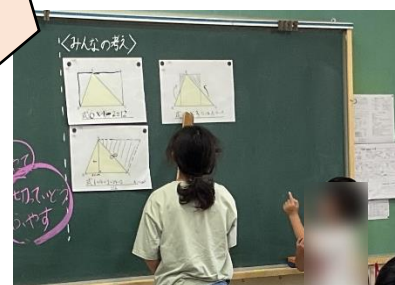
☆学習用語を使って表現する

少人数で考えを整理した後は、グループごとの考えを全体で共有しました。どのグループも図を示しながら一生懸命説明していましたが、「ここがこうなるから...」「これをこっちに動かして...」など、自分の考えはもっているものの、それを適切な言葉で表現することに難しさを感じている場面も見られました。

この授業では、導入の段階で「底辺」「高さ」といった学習用語を丁寧に確認していました。これは公式を思い出すためだけでなく、子どもたちが自分の考えを説明するときの「言葉」をそろえるためでもあったのだと感じました。共通の言葉があることで、「底辺をそのままにして...」「高さは変わらないから...」と、根拠を明確にしながら説明することにつながります。

授業の中では、「それを習った言葉で言うത്?」「算数の言葉で説明するとどうなる?」と問い返したい場面もありました。しかし、限られた授業時間の中では、すべてを拾い上げることは容易ではありません。だからこそ、日頃から各教科で学習用語を意識して使う経験を積み重ねることが大切なのだと感じました。

これは算数だけでなく、国語・情報活用部会がめざしている「自分の考えを言葉で表現する力」の育成にもつながる視点でした。教科で学んだ言葉を日常の授業でも意識して使うことで、子どもたちの表現はより正確で根拠のあるものへと変わっていくのではないのでしょうか。



学期末のお忙しい中、
ありがとうございました!